



カレブ通信

2013年2月10日

第19号

1 各地カレブの会の予定

内容

1 各地のカレブの会の予定

2 ミニ報告

「雪よりも白く」香川和生

3 カレブ ストーリー1

「楽しい第二の人生」

山本文夫

4 カレブ ストーリー2

「営業経験を生かした

人間関係作り」

市村昌三郎



「カレブ ストーリーとは」

「今や私は、きょうでもう85歳になります。・・・

モーセが私を遣わした日のように、今も壮健です」

（ヨシュア記14章）と、信仰によって主の御心を成し遂げたいと願うカレブの熱い思いが「カレブの会」のスピリットです。

「カレブ通信」には、現代のカレブとして歩む人々のさまざまな日常の物語りが綴られています。

●東京カレブの会 2月22日（金）OCC 402

お話し：山田貫司様

お話しのタイトルは：「ミドルエイジの課題に出会って」

3月の予定は22日（金）東後勝明様

●宇都宮 カレブの会 3月2日（土）マルコからイエスの生涯を学ぶ
カレブの会としての地域貢献とは何か（今年のテーマ）

●宇都宮大学OBカレブ会 3月30日（土）

●仙台カレブの会 2月16日（土）

2 メンバーのミニ報告

「雪よりも白く」

香川和生

「さあ、来たれ。論じ合おう。」と主は仰せられる。「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」（イザヤ一八章十八節）自宅マンションの大規模修繕が終わり、駐車場の区画白線も新しく引き直されました。正月十三日、主日礼拝に行こうとしたら、私の駐車場に不法駐車している車を発見しました。その日、体調も優れず不機嫌になっていた私は、礼拝に急ぐどころか、とりあえず困りもしないのに、『不法駐車厳禁』ルールを書いてある重い看板を引きずって、意地悪をしようとその車の前に置きました。体調は優れずとも人に意地悪をしようとするエネルギーはいくらでも残っているものなのです。その姿を息子にも見られました。礼拝に急ぐ息子を見て自分の惨めさに呆然としていたら不法駐車車の持ち主が現われ、実はマンションの水道修理の業者の方の車だったのです。僕は正直に「今、ルールを盾にして、日曜日も働いて工事をしてくれるあなたがたに意地悪をしようしました

。赦してほしい。今は困らないから工事が終わるまで安心して車を停めてください。」と話すことが出来ました。主は、見えるルールを重視して抛り所とする私の体調を崩してくださり、弱い私の本当の姿を光の中へと出してくださいました。その日の礼拝の席上の祈りで、ガラテヤ二章のみことばが与えられ、心から「私は神に生きるために、律法によって律法に死にました。」と、十字架の感謝の祈りへと導かれましたことは本当に恵みでありました。次の日は成人の日でしたが、朝、目覚めて見ると天気予報に反し大雪、一面の銀世界となり駐車場の白線はすべて雪の白さに覆われ消えていました。区画ルールが消えても私の権利は一点一画も損なわれることなく。イエス様は駄目な僕を絶対に捨てられません。イエス・キリストは昨年今年もいつまでも同じです。これが私の望みのすべてです。

3 カレブ ストーリー (1)

楽しい第二の人生・・・白髪になっても背負ってくださる神様

山本文夫



山本文夫ご夫妻



年金で安穩とした生活をしていて良いのか。オリンピックの選手やサッカーの選手たちがあれほど、まじめに、熱心に練習に取り組んでいるのに、神の国のことではるかに熱心であるべきではないか。この世の富、人間的なものを手元に置いて、何も失わないで範囲でやれることをやっているのではないか、と思わせられた次第です。つまり垣根を越えてきたと思っていたのですが、実は越えていなかったのではないか。人に仕え、人を愛し、そして何よりも神さまに仕えるのに「これで良い」はないのではないのでしょうか。

お問い合わせ先

fumio@yama-mo.to

伊東市在住

あなたが右へ行くにも左へ行くにも、あなたの耳はうしろから、「これが道だこれに歩め」という言葉をきく・・・主はあなたが畑に蒔く種に雨を降らせ、その土地に産する食物は豊かで滋養がある。

イザヤ 30 章 21, 23

このみ言葉は私のこの5年間の生活そのものです。私は2008年に仕事をやめ、東京から静岡県伊東市に移住、自宅が無農薬野菜を育て「オープンハウス」を始めました。2ヶ月に1回、夕刻に自宅を開放し、懐かしい歌・賛美歌と健康な食事、そして歓談のときを近隣の方がたと共にする会です。小川吾朗さんに命名いただいたこの会は、地元の方々に受け入れられ、すっかり定着しました。

そこで昨年11月からもう一つのプログラムを始めました。地元のレストランのオーナー、美容院の先生そして川奈聖書教会の山口牧師のご協力をいただいて企画したものです。外部から専門家を招いて勉強・実習するカルチュアのパートと聖書の学びを組み合わせたもの、「ハーベスト&バイブル」と名付けました。

フラワーデザインの先生の指導によるクリスマスリース作り、有機野菜栽培の講義、弁護士による遺言・相続セミナーなどテーマは多彩。毎回定員20人いっぱいの人気です。この企画によって私が住んでいる小室山から伊東市全域に人の輪が広がり始めました。聖書の学びも皆さん熱心に聞いてくださっています。

また川奈聖書教会で聖歌隊の団長を務めています、チャペルコンサートには毎回80人前後の未信者が集まってくれます。伊東市最大の合唱団の幹部からお誘いがあり、この1月からこの合唱団にも夫婦で参加することになりました。また自治会活動を活発に展開しているうちに、伊東市の各地自治会の連絡会の座長をお引き受けしました。防災や自治会運営のノウハウ交換の際には、住民相互の愛の精神の必要性をお伝えしています。

移住して5年、ずいぶん手を広げたと思っていましたが、米国のハイパーという牧師が書いた「無駄でなかったといえる生き方」という本を読んで頭を打たれました。パウロは「私はキリストのゆえに一切のものを捨てて、それをちりあくとおもっています。ピリピ3-8」といっています。

年金で安穩とした生活をしていて良いのか。オリンピックの選手やサッカーの選手たちがあれほど、まじめに、熱心に練習に取り組んでいるのに、神の国のことではるかに熱心であるべきではないか。この世の富、人間的なものを手元に置いて、何も失わないで範囲でやれることをやっているのではないか、と思わせられた次第です。つまり垣根を越えてきたと思っていたのですが、実は越えていなかったのではないか。人に仕え、人を愛し、そして何よりも神さまに仕えるのに「これで良い」はないのではないのでしょうか。なんといっても神さまはすごい約束をしてくださっているのです。

あなたがたが しらがになっても、わたしは背負う わたしはそうしてきたのだ なおわたしは運ぼう わたしは背負って救いだそう イザヤ46-4

4 カレブ ストーリー (2)

営業経験を生かした人間関係作り

市村昌三郎

私は、住宅機器関連の会社で、営業一筋で約 39 年間務めてきました。その間、札幌、福岡、横浜など転勤が多く、12 回もの引っ越しを経験しました。また最後の約 10 年間は子会社への出向で、経営の立て直しを経験させていただきました。私生活の面では、福岡、横浜で約 14 年間単身赴任を経験しました。その当時、私が腐心したのは、家族との会話でした。家族が札幌で私が福岡、当時、月の電話代が 5 万円を超えることがありました。当時、4 人の子どもは、長女（中・3）、長男（中・1）、次男（小・5）、次女（小・1）で、それぞれの個性で成長してくれました。

家族のうち、最初に長女がゴスペル・コンサートで知り合った友人の導きで救われました。（2000 年 9 月）そんな姉の信仰を持ち、変えられてゆく姿を見ていた妹が 2003 年 3 月に、妻が 7 月に救われました。母教会は札幌平岡福音キリスト教会（牧師（トニー師）カナダ人）でした。その後、2005 年に妻が、私の住む横浜の本郷台キリスト教会に転会しました。

本郷台教会では、小グループの交わり（ファミリー）があり、妻に誘われて私も何となく参加するようになりました。仲間ができると少しずつ教会の敷居も低くなり、礼拝に行くことが多くなっていきました。ある時、別の会合でのメッセージで創世記のノアのお話し（7:16 主が彼の後ろの戸を閉ざされた）を聞き、私も瞬間、一緒に入りたいと思いました。2009 年 9 月のことです。その年の 12 月のクリスマスに洗礼を受けました。その後、2010 年 12 月に長男夫婦が同時に受洗し、孫 2 人と息子夫婦、長女、家内と 7 人で毎週教会に通っています。

自分の救われた（クリスチャンへの）道のりを振り返ると（福音の道に置き換えてもよいと思うのですが）ノンクリスチャンにとって教会（キリスト教）の存在や敷居はとんでもなく遠く、高いと言わざるを得ません。そんな中で私は私なりの福音の方法（スタイル）を考えました。

それは、こんな私でも（友人、知人や職場の仲間、得意先の人達にも市村という人間が粗野で酒飲みで有名でした。）悔い改めると、イエス様は全てを赦し受け入れてくださるんだ、ということ、自己中心（罪＝SIN）を悔い改めて、イエス様に全てをゆだねると、必ず道が開けてくるんだと（クリスチャンになれるんだ）と話します。

- (1) 仕事の間（得意先との商談 etc）に於いても商談終了後に 5 分だけ時間を頂いて、自分がクリスチャンであること、・・・神様の福音を私の言葉と生き様で伝える。
- (2) 仕事仲間や友人とは酒の場で（もっぱら居酒屋）酔っぱらう前に、自分の近況を紹介しながら、自分がクリスチャンであること、クリスチャンになると（神様を受け入れると）心豊かな平安な毎日があることを話します。
- (3) ボランティア（東北の震災地を含め）など、なんでも、どんどん積極的に参加する。行動する。頭のない分、体で補い、とに角、人とはできるだけ接し、会話する。これが私の身上です。



市村昌三郎 ご夫妻

仕事は営業一筋で約 40 年、家族が先に信仰を持ち、その後、横浜で 2009 年に信仰を持ち、家族そろって教会に行くようになりました。

営業で、関係造りを重視してきた経験が、伝道・証でも役立つことを体験しつつあります。

自分の救われた（クリスチャンへの）道のりを振り返ると（福音の道に置き換えてもよいと思うのですが）ノンクリスチャンにとって教会（キリスト教）の存在や敷居はとんでもなく遠く、高いと言わざるを得ません。そんな中で私は私なりの福音の方法（スタイル）を考えました。

お問い合わせ先

shozaburo821@gmail.com

横浜市在住

